



健やか豆知識

第15回

Q. 副鼻腔炎と合併している 可能性があるのはどれ?

- I かぜ (感冒)
- II アレルギー性 鼻炎
- III ぜんそく



タカちゃん ママ タカちゃん タカちゃん パパ

長引く子どもの鼻水、軽視しないで。

「鼻たれ小僧」は、もはや昔の話。鼻水が2、3日から1週間程度で終わればいいのですが、いつまでも続いているようであれば放っておかずに、一度、耳鼻咽喉科で診てもらいましょう。

特に鼻水がサラサラしたものではなく、黄色やネバネバしている場合は、副鼻腔炎(蓄膿症)の可能性があります。副鼻腔炎は鼻の奥にある副鼻腔の粘膜に炎症が起こり、副鼻腔に膿が溜まることで、色のついた粘り気のある鼻水が出てきます。

また、子どもは副鼻腔が狭いので膿が喉に垂れて、それが刺激となって咳が出ることで、ぜんそくと間違われてしまうことがあります。さらに症状が似ていることから花粉症などアレルギー性鼻炎と間違われることもあります(ただし、子どもの場合は、副鼻腔炎とアレルギー性鼻炎が合併していることもあります)。「鼻水がどんな状態であるか」、「症状がどのくらい続いているか」を伝え、正しい治療をすることが必要です。

子どもの副鼻腔炎は大人よりも軽症ですが、頻度は高いので軽視しないほうがよいでしょう。視診やエックス線検査で副鼻腔炎と診断されたら、マクロライド系の抗菌薬で治療します。アレルギー性鼻炎を合併している場合は、同時にアレルギーの治療も行います。

子どもは鼻をすすっていることが多いため、鼻水を垂らしていないように見えていることがあります。鼻をすする、袖で拭うなどの癖がないか、口呼吸になっていないかを観察してください。そして正しい鼻のかみ方(①片方ずつかむ、②ゆっくり大きくかむ、③口から息を吸ってからかむ)を教えることが大切です。

監修 後藤 穰 日本医科大学付属病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授

さらに詳しい情報は
ホームページで!



高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —
高田製薬株式会社

⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください